

令和5年度 中学生「親になる講座とふれあい体験」 実施報告書

知多市児童センター

1. 事業目的

本事業は、将来親となる世代の中学生を対象に、愛知県が作成した『親と子のふれあい』DVDを活用し、学習講座を行います。その上で乳幼児親子と生きたふれあいを行うことにより、乳幼児や家庭を知り、他者への関心、共感の能力を高めるなど、生徒の健全育成を図ります。このように、将来の子育てに関する予備知識を得ることで、親になることへの期待や、自覚、責任の気持ちを育むことを目的としています。

なお、本事業は国が乳幼児とふれあう取り組みを児童館の取り組みとして位置づけており、『知多市子ども・子育て支援事業計画』の施策として実施しています。

2. 実施校・開催日等

実施校	開催日	対象	講座	ふれあい体験	疑似体験	親子人数	
旭南中学校	11/2(木)	講座：全4クラス ふれあい：1クラス	武道場 (全クラス)	会議室	武道場	13組 29人	
知多中学校	11/7(火)	講座：全6クラス ふれあい：1クラス	感染予防の為、中止				
東部中学校	11/8(水)	講座：全3クラス ふれあい：希望者 (1クラス分選抜)	体育館 (全クラス)	武道場 (1クラス)	体育館 (2クラス分) *ふれあい見学	15組 32人	
八幡中学校	11/21(火)	講座：全5クラス ふれあい：希望者 (1クラス分選抜)	体育館 (全クラス)	武道場 (1クラス分)	体育館 (4クラス分)	11組 24人	
中部中学校	11/28(火)	1クラス	教室	柔剣道場		11組 25人	

3. 内容

- ①赤ちゃんへの興味関心、また『親になる』ことに対してどう考えるか等、事前と事後にアンケートを実施する。
- ②『親と子の愛着』のDVD（愛知県作成）・パワーポイントでの講座にて“赤ちゃんの発達”“赤ちゃんのかかわり方”“夫婦が協力して子育てをすること”など学ぶ。



③赤ちゃんとのふれあい体験

生徒と親子のペアを作りかかわる乳幼児を決め、限られた時間内で親しみを持ちふれあうことができるようにする。

好きな遊びで距離を縮められるように自由遊びを設け、手や身体に触れて遊ぶ手遊び・体を動かして楽しむ体操・みんなで大型絵本を見る・音楽に合わせてリズム遊びをするなど“直接ふれあう機会を設定する。

④親が感想を記入している間、生徒は赤ちゃんとマラカスを鳴らしリズム遊びをする。

最後に代表の生徒数人が、感想や感謝の気持ちを伝える。

(希望があれば 疑似体験を実施)

○新生児標準体重 3 kgの人形を使用

赤ちゃん人形を使って、新生児の重さ・首の不安定さを感じ、1つの命の重みや命を大切に扱わなければならないことを実感する。また、おむつ交換・おんぶ紐を使ってのおんぶ・肌着の着脱など体験する。

○妊婦ベスト (5 kg) を使用

妊娠ベストを着用して、立つ・座るなど日常の動きをする事で、重み・動きにくさなど体にかかる妊娠中の負担を疑似体験する。



4. 生徒の感想（抜粋）

○赤ちゃんとふれ合って命の大切さを知ることができ、自分もこう育てられてたのかなと思い親に感謝し、ちゃんと命を大切に過ごしていきたいと思いました。

○今、自分がここにいるのは、家族が僕を小さい頃に一生懸命育ててくれたからだと思いました。

○将来の自分の姿がまだ想像がつかない、子供を育てる上で親になる責任を持つことが大切だと思った。

○自分が将来どんな親になるか想像がつかないし、子供ができたらどういう風に世話してあげればいいのかまだ考えた事なかった。自分がちゃんと親になれるのかなって思ってしまうと不安。

○実際に赤ちゃんや赤ちゃんのお母さんに会って、赤ちゃんの笑顔や暖かさ、お母さんの嬉しそうな顔がとても幸せそうで、私も子供が欲しくなった。

○子供はめっちゃ可愛かった！ 大変なことがいっぱいあるとおもうけど、頑張りたい！

○大変な時には自分1人で抱え込まずに、家族や周りの人に頼り支え合っていくことが大切だとわかった。

5. 保護者から生徒へ（抜粋）

○とても優しく気遣いながら遊んでくれて嬉しかったです。きっとみなさんのお母さんお父さんも同じようにかわいがって育ててくれたと思います。感謝の気持ちを忘れず、これから沢山の事にチャレンジし素敵な大人になってください。

○いろいろな物事に興味があり、大変ですが、息子の動きに付いてきてくれてありがとうございました。遊び方も工夫して遊んでくれたり、子どもの目線に立ってくれて嬉しかったです。

○人見知りをしてしまう娘ですが、寄り添ってくれてありがとう、生徒さんとお話できて楽しかったです。今日の経験を活かしてくれればと思います。私もふれあいの時間を通して沢山の事を感じ、生徒さんの姿から学ばせていただきました。

○最後の生徒さんの感想で「赤ちゃんはみんなかわいい、自分が父親になったら頑張って育てたい」と話されて、嬉しいしほんの少しの触れ合いでそう思うならもっともっと日常にふれあえる場を作るべきですね。

○ドキドキしながら抱っこしている姿がほほえましかったです。この触れ合いを通して優しい気持ちを忘れないでいて下さい。





6. まとめ

昨年度に続き『親になる講座とふれあい体験』を全クラスで実施して欲しいという要望が多くありました。しかし講座の時間は限られており、全生徒が一度に赤ちゃんにふれあう事は難しい為、①講座は全クラスで実施②ふれあい体験は1クラス分の生徒が実施、その他の生徒は赤ちゃん人形を使って疑似体験を実施するという方法で行いました。

アンケート結果(別紙)から、乳幼児への好意的な感情を持つように回答した生徒の割合が64%から84%となり親と子の触れ合いを通じて生徒が、育児の喜びや大変さを感じ取り、自分が親になった時の役割や子育ての大切さも考えるきっかけとなっているように感じます。

現在は中学校からの希望により行事や受験などで忙しい学年を避けて中学1年生を対象に実施していますが、中学校学習指導要領の『家庭分野での家族家庭生活、幼児の生活と家族』の内容がふれあい体験の趣旨にもつながりますので、学校の年間計画・カリキュラムに組み込んでいただけるようになれば、より親に近づく中学3年生での実施、各クラスでのふれあい体験も可能になるのではないかと考えています。今後、少しでも多くのクラスでのふれあい体験を実現するために学校側からのご意見をいただきながら工夫や見直しをしていきたいと思っております。

